



ふるさと銀河線のあゆみ

1907年	池田—網走間の鉄道建設着工
10年	網走線の池田—陸別間が完成
11年	陸別—北見間が完成
12年	池田—網走間が全線開通。網走本線に改称
49年	日本国有鉄道(国鉄)が発足
61年	池田—北見間が池北線に名称変更
85年	国が池北線を廃止対象の特定地方交通線(赤字ローカル線)として承認
87年	国鉄が分割民営化
88年	池北線の第三セクターでの存続が決定
89年	運営会社の第三セクター「北海道ちほく高原鉄道」が発足 ふるさと銀河線が開業
91年	JR帯広駅への直通運転再開
95年	列車集中制御装置(CTC)使用開始 (置戸—北見)
97年	CTC全線使用開始
2001年	SL銀河号運行
03年	道がふるさと銀河線のバス転換を提案
05年	ふるさと銀河線の廃止を承認
06年	4月20日でふるさと銀河線の運行が終了。21日以降は代替バスが運行

# 消えた鉄路 進む過疎

十勝とオホーツクを結んだ第三セクター鉄道「ふるさと銀河線」(十勝管内池田—北見間140km)が2006年4月に運行を終えてから、20日で10年を迎える。地域とともに1世紀近い歴史を歩んだ鉄路の廃止は、今も住民生活にさま

ざまな形で影響を与えている。道内が北海道新幹線開業に沸く中、鉄路が消えた沿線自治体は、地域の地盤沈下や住民の足の確保などの課題に直面している。

(本別支局 牧之段英樹、北見報道部 川上昌弘)



北見駅に到着後、車庫に向かう最終列車を見送る人たちと、帽子をとって応える乗務員  
=2006年4月20日

道教大札幌校  
武田泉准教授



「銀河線廃止は、現在の鉄路の存廃問題を考える反面教師になる」と話す武田泉准教授

ふるさと銀河線の廃止は、今のJR北海道の赤字路線廃止や減便という問題に大きく影響しています。JRの経営問題ではあります。(廃止が決まった留萌線留萌、R北海道の赤字路線廃止や自治体に漂う諦めムードにつながっています)。

## バス死守へ努力

ふるさと銀河線の廃止は、今のJR北海道の赤字路線廃止や減便という問題に大きく影響しています。JRの経営問題ではあります。(廃止が決まった留萌線留萌、R北海道の赤字路線廃止や自治体に漂う諦めムードにつながっています)。

武田泉准教授

道教大札幌校  
武田泉准教授

運転体験／絵画館・

## 駅舎や線路跡 新たな活用も

鉄道施設の活用でユニークが、十勝管内陸別町の「りく鉄道」。旧陸別駅構内や町内を2往復する運転体験は、6月と国内最長。昨年は旧松浦踏切を2往復する線路を使い、銀河線の気動車観光客らに乗車、運転を体験して農地となつたところもあればなりません。車体験列車も試験運行され、農村部の鉄道敷地は売られた。今年の営業開始は2月と約1カ月前から予約を博した。運転体験は2月から予約まで活躍した。



## ふるさと銀河線廃止10年

「銀河線の廃止で鉄道地図から町の名が消えてしまった。十勝とオホーツクの人的交流も希薄になり、あらためて鉄道はかけがえのない財産だったと痛感した」。十勝管内本別町の高橋正

田一陸別間開通を皮切りに鉄道は延び、12年には全線が開通。沿線には豊富な林業資源があり、流水で冬期間利用できないオホーツクの港に代わり、物資を太平洋側の港湾まで輸送する動脈として鉄道は活気づいた。

しかし、自動車の普及などで鉄道離れが進み、85年には国の廃止対象路線になった。その後、道と沿線自治体などが第三セクターを設立して存続を図り、89年に「ふるさと銀河線」が誕生。約17年間運行したが、利用者減少傾向だったが、廃止後10年で沿線7市町の人口減少率は9%に上り、過疎化が進んだ。通学や通院の利便性を考え、都市部へ転居するケースも出ているといふ。

銀河線は池田と網走を結ぶ網走線として1907年(明治40年)に建設が始まった。10年の池田一陸別間開通を皮切りに鉄道

沿線人口は銀河線廃止前から減少傾向だったが、廃止後10年で沿線7市町の人口減少率は9%に上り、過疎化が進んだ。通学や通院の利便性を考えると、ぎりぎりの決断だった」と振り返る。道と沿線自治体による協議会は10回以上にわたって開かれたが、鉄路存続への決定的な方策は見いだせなかった。

## マイカー頼み

銀河線廃止後、帯広一陸別間(十勝バス)と陸別一北見間(北海道北見バス)で代替バスが運行されている。沿線自治体にとって町外とを結ぶ貴重な公共交通機関になつているが、利用者は減少。路線の採算悪化に伴う赤字を穴埋めするため、沿線市町の負担が増えている。

北大大学院修士課程の斎藤真



夫町長は、10年間の変化を語る。

年に「ふるさと銀河線」が誕生。約17年間運行したが、利用者減少傾向だったが、廃止後10年で沿線7市町の人口減少率は9%に上り、過疎化が進んだ。通

学や通院の利便性を考え、都市部へ転居するケースも出ているといふ。

オホーツク管内訓子府町を走るふるさと銀河線=2006年3月